

平成 27 年度「オリンピック・パラリンピック教育モデル推進校」 事業実施報告書

- I スポーツへの誘い 自己肯定感の醸成
- II 障害者や高齢者への理解 共生社会の形成
- III スポーツへの関心や競技力向上 スポーツボランティアへの参画
- IV オリンピック・パラリンピックに向けた京都の伝統や文化等の発信
- V 児童生徒オリンピック、パラリンピックを通じた国際理解教育の推進

実践事業	【 I , III 】	I～Vを記入して下さい。	
学校名	京都市立 洛南中学校	全校生徒数	764名
実践学年、部、講座等	全校生徒対象（1・2・3年生 全校生徒）		
目 標 (ねらい)	オリンピズムの観点(○印) <重複可>	友情 (○) 卓越 (○) 尊重 (○)	
実践内容	<ul style="list-style-type: none"> 本校卒業生、ラグビーワールドカップイングランド大会に日本代表として出場した早稲田大学4年、藤田慶和さんを迎え全校生徒対象に「ラグビーを通して学んだこと～先輩からのメッセージ～」と題した講演を行った。 		
		講演では、自らの体験より「かかをした際、あたり前にできていたことがあたり前にできなくなった。君たちもあたり前にできることが、あたり前ではない、何でもできていることに感謝をする気持ちを持ってほしい。」や	
	「困難なことには奮闘しても、努力し続けることで、必ず報われることがある。自分を信じて頑張ってもらいたい。」など、これからの子どもたちに必要な、「感謝」「努力」「継続」「協力」の大切さを、子どもたちに伝えていただいた。		
			

<p>実施上の留意点等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが受け入れやすく、且つ興味・関心を引く内容にし、自主的、自発的な学習を促せるような取組とすることが必要である。 ・講演を行う上で講師の日程と指導計画との調整を行い、子どもたちにとって有意義な講演とすることが必要である。 ・複数年にわたった取組を行うことで、経年変化を分析を行い、より一層深めた取組とすることが必要である。
<p>主な成果 (分析結果)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツを通じて、努力し続けようという意識を持った子どもたちが増えた。 2. 自校の先輩ということもあり、子どもたちの将来展望の参考になった。 3. 子どもたちの間で自他を認識し、尊重する考え方がより一層深まった。 4. 意識を変えることで、苦しいことやつらいことを超えることで、自らが一回りも二回りも大きく成長できるという考えが子どもたちの中で芽生えさせることができた。 5. 世界的な視野に立って活躍する選手より、あたり前のことができる環境に感謝する気持ちを持たせることができた。 6. 今回の事業で、オリンピズムの考え「友人やチームを大切にする。」「自らの限界を超え、努力する意識を持つ。」「自分を認めるとともに、他者を尊重する考えをより一層深める。」ことが、子どもたちの中に根付かせることができた。
<p>主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの考えの中で、今回のこの事業を通して有意義な取組となったが、講師の選定や日程調整の面で課題が残った。 ・単年での取組ではなく、複数年の取組とすることで子どもたちの意識がより一層深められると考える。